



ぐるくん

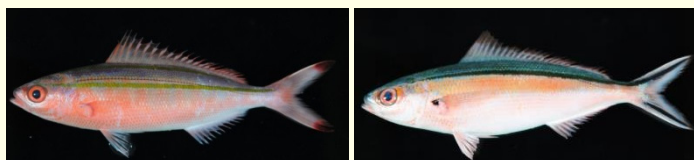
(タカサゴ科)

～地域や種による生活史のちがいを～

① “ぐるくん” の仲間

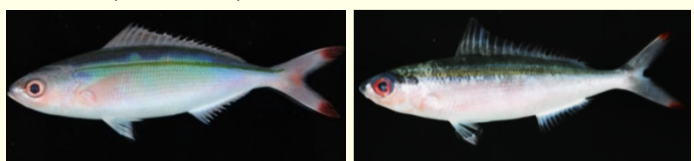
沖縄ではタカサゴ科魚類のことをぐるくんと呼びます。サンゴ礁の海に暮らすぐるくんは、昼間はリーフの外を群れて遊泳して餌を探し、夜は群れを解消してサンゴの下に隠れて眠ります。もっとも一般的に“ぐるくん”と呼ばれているのは、タカサゴで、沖縄県の県魚にも指定されています。日本にはタカサゴの仲間が4属10種が生息しており、沖縄県で船釣りの対象として広く親しまれているのは、タカサゴを含むクマササハナムロ属と体が平たい“ヒラーぐるくん”と呼ばれるタカサゴ属の8種類です。

クマササハナムロ属



タカサゴ
(ぐるくん)

クマササハナムロ
(ウクーぐるくん)



ニセタカサゴ
(カブクヤーぐるくん)

イッセンタカサゴ
(ポーサネラー)

タカサゴ属



ユメウメイロ
(シチューぐるくん)

ウメイロモドキ
(アカジューぐるくん)



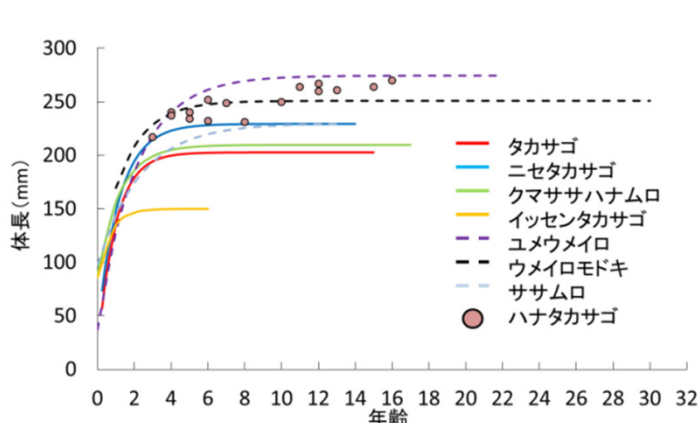
ササムロ
(ヒラーぐるくん)

ハナタカサゴ
(コージャヒラー)

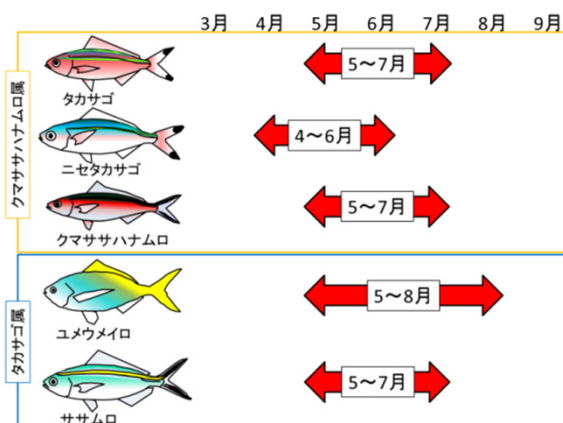
② グルクンの年齢と産卵期 ～種間での違い～

ぐるくんの仲間は、大きくても全長30 cm程度の比較的小さな魚ですが、標本を集めて年齢を調べてみたところ、寿命が15年ほどの種類が多く、中には30年も生きている個体もいることが分かりました。ぐるくんは、長寿の県・沖縄の県魚とあって、大ききの割に長生きのようです。

また、それぞれの種について沖縄本島での産卵期を調べたところ、多くは初夏から夏にかけて産卵していることが分かりました。この時期は、レジャーシーズンとも重なり、ぐるくんが良く釣られる時期でもあります。



ぐるくんの年齢と体長の関係

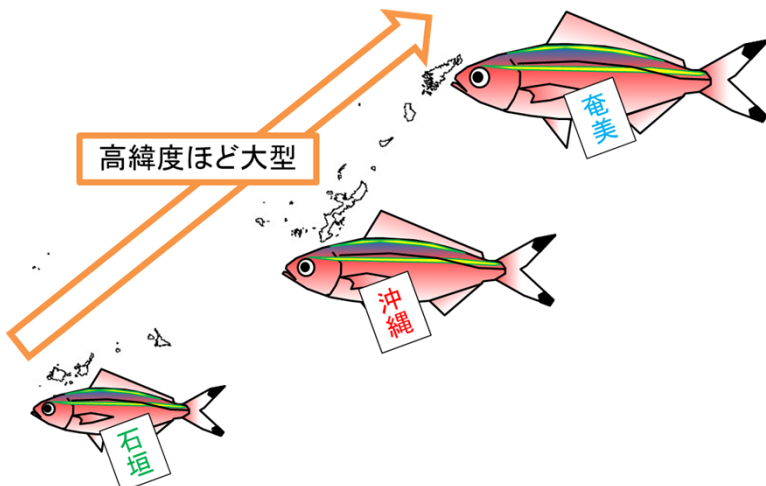


ぐるくんの産卵期

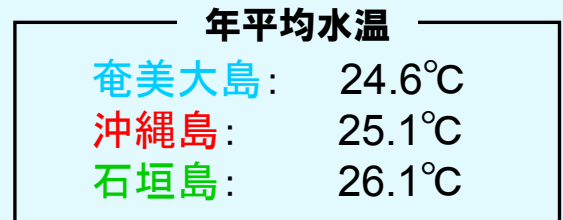
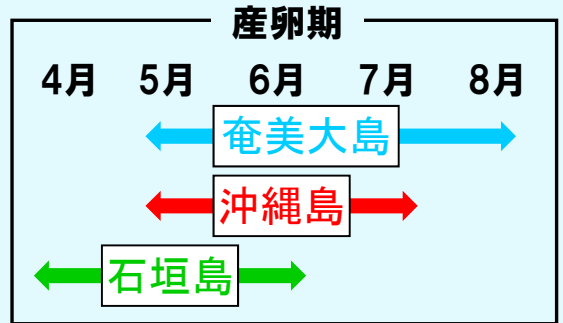
③ 地域による生態の違い ～同種内での違い～

魚類では、同じ種であっても生息する地域の環境によって、からだの大きさや産卵期間が異なる場合があります。グルクンの中でも、琉球列島の北から南までもっとも入手しやすいタカサゴを対象に、奄美大島、沖縄島、石垣島においてタカサゴの標本を集め、年齢と成長、産卵期についてそれぞれ調べ、比較してみました。すると、寿命に大きな差はありませんでしたが、体の大きさは北に行くほど大きく、産卵の開始時期が遅い傾向が見られました。

このような違いが生じる詳しい原因は分かっていませんが、水温や餌環境などの違いが影響を与えている可能性が考えられます。

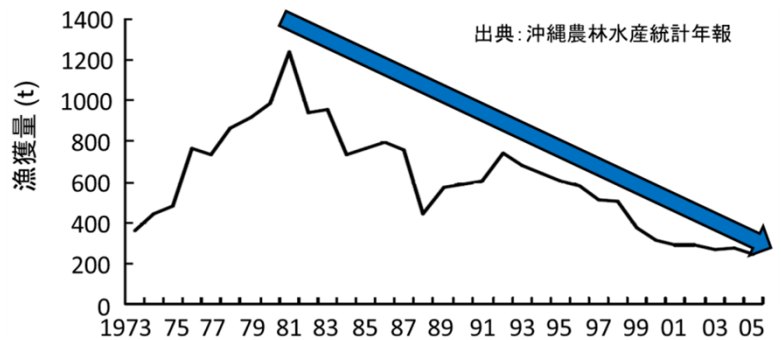


タカサゴ（グルクン）の地域差



④ グルクン資源の持続的な利用のために

県民に広く親しまれているグルクンですが、今回の研究によって一口に“グルクン”と言っても多くの種があり、それぞれ成長するペースや大きさが異なることや、同じ種であっても地域によって体の大きさや産卵時期などが異なることが分かりました。このように、魚類の生態は、詳しく調べてみないと分からないことがたくさんありますので、地道な研究が重要であると言えます。その一方で、グルクンの仲間の漁獲量は、アギヤーと呼ばれる追い込み漁の廃業などにより、ピーク時の約3分の1にまで減少してしまいました。これには、環境の悪化などによって魚の数（資源量）自体が減ってしまったことも関係していると考えられます。沖縄を代表する魚である“グルクン”と末永く付き合っていくためには、今後も彼らの生態をより詳しく調べていく必要があります。



タカサゴ類の年間漁獲量

⑥ 参考資料・文献

・平成27年度沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業に関する委託「水産重要魚類の生活史と遺伝的集団構造の解明」研究成果報告書。

執筆担当者：佐久本孟寿（琉球大学大学院理工学研究科）